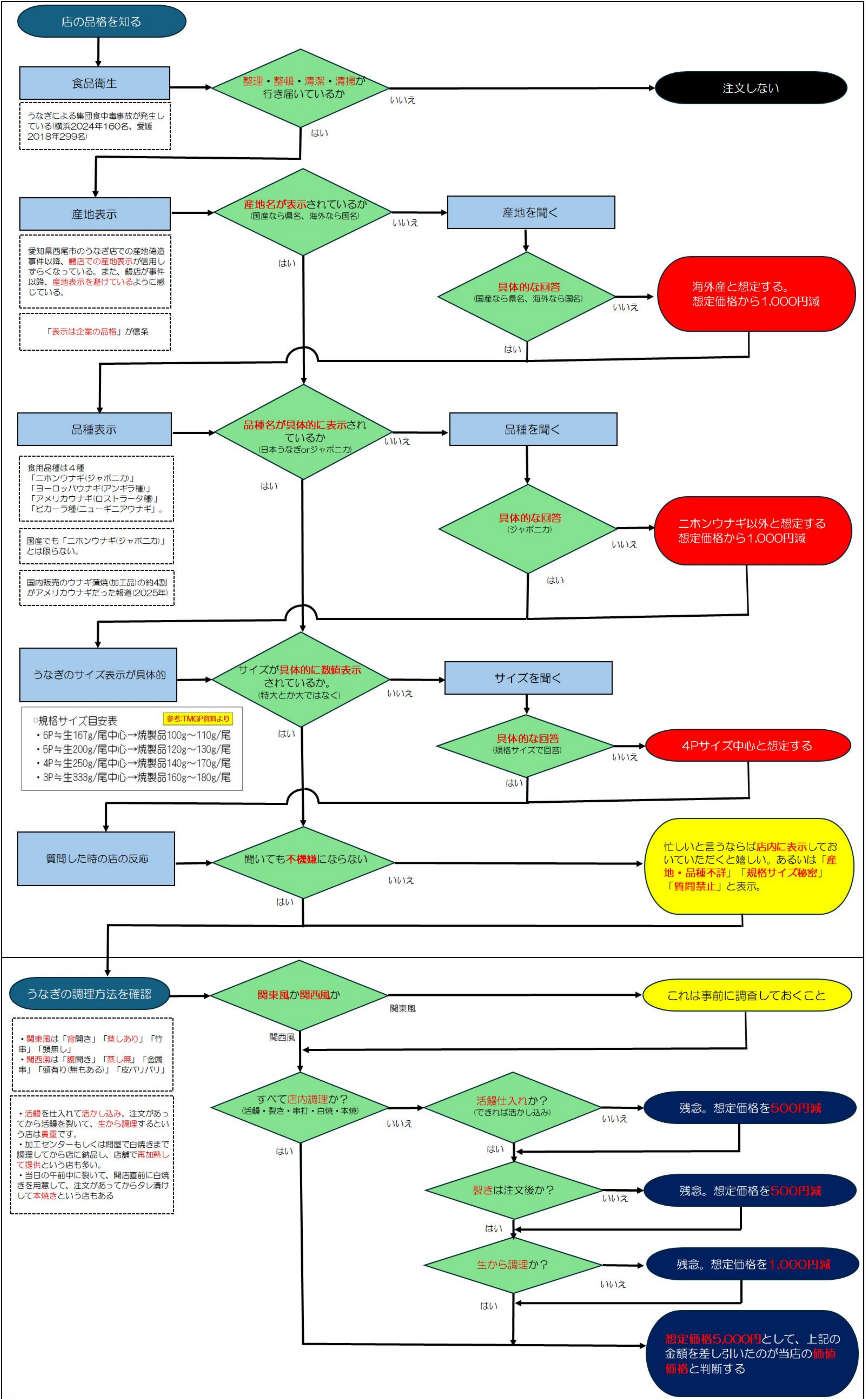


【あくまでも私的目安です】「産地・品種偽装」されないために、「品質・サイズに見合った適正価格」で食すために、うなぎの正体を知ってから注文する



「店の品格は、客層、他人の評価、年月の長短ではなく、食品衛生と表示と適正価格」
「産地・品種・規格サイズを問わずに注文している常連客が羨ましい」

鰻店の技術や味の前に大事なコト(正体)を知ってほしい。

活うなぎ 某店ネット販売価格(例)

調査日2025/06/03

	産 地	サイズ	価格/匹	長焼(1匹分) 想定提供価格	価格比(対中国産)
専門店 サイズ	国産 活うなぎ(4P) 産地混在	4P(約250g中心)	約2,000円	5,000円~6,000円	133%
	国産 活うなぎ(4P) 愛知一色産限定	4P(約250g中心)	約2,500円	6,000円~7,000円	160%
	中国産 活うなぎ(4P)	4P(約250g中心)	約1,500円	3,750円~4,000円	100%
量販店 サイズ	国産 活うなぎ(5P) 産地混在	5P(約200g中心)	約1,800円	4,300円~4,500円	123%
	国産 活うなぎ(5P) 愛知一色産限定	5P(約200g中心)	約2,400円	3,800円~4,500円	160%
	中国産 活うなぎ(5P)	5P(約200g中心)	約1,300円	3,000円~3,500円	100%

□規格サイズ目安表

参考:TMGP資料より

- 6P≡生167g/尾中心→焼製品100g～110g/尾
- 5P≡生200g/尾中心→焼製品120g～130g/尾
- 4P≡生250g/尾中心→焼製品140g～170g/尾
- 3P≡生333g/尾中心→焼製品160g～180g/尾

かば焼き4割 アメリカウナギ

WWFと中央大調査



二ホンウナギ=WWFジャパン提供

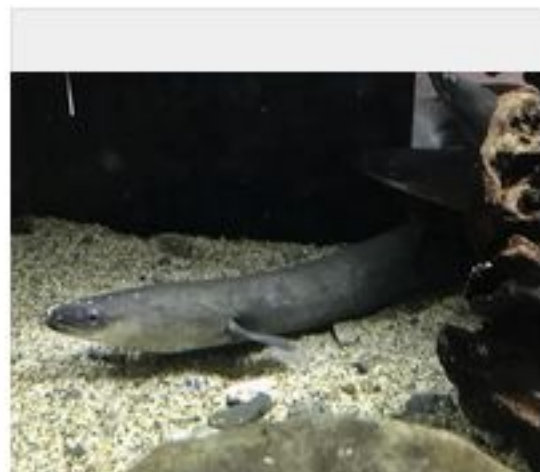
世界自然保護基金(WWF)ジャパンと中央大は4日、国内で販売されたウナギのかば焼きをDNA分析した結果、約4割はアメリカウナギだったと発表した。絶滅の恐れから流通量が減った二ホンウナギやヨーロッパウナギに代わり、稚魚の違法取引が問題化している北米原産種が、日本でも大量に消費されている

実態が明らかになった。
アメリカウナギは、カナダやハイチ、ドミニカ共和国で捕獲された稚魚が香港を経由して中国で養殖されているとみられる。日本にもこれらが「中国産」として加工品や生きた状態で輸入されている。WWFジャパンは「ウナギを大量消費する日本が、知らないうちに違法な漁業を支えてしまっている可能性がある」と指摘している。

中央大の研究チームは、2024年に全国各地のスーパーや百貨店で購入したかば焼き133点を分析。約6割は東アジア原産の二ホンウナギ、約4割はアメリカウナギだった。「国産」表示の51点は全て二ホンウナギだったが、「中国産」表示の82点は半分以上がアメリカウナギだった。

ウナギ、国内販売の4割は北米種 稚魚の違法取引に懸念

6/4(水) 17:19 配信



ニホンウナギ (WWFジャパン提供)

世界自然保護基金 (WWF) ジャパンと中央大は4日、国内で販売されたウナギのかば焼きをDNA分析した結果、約4割はアメリカウナギだったと発表した。絶滅の恐れから流通量が減ったニホンウナギやヨーロッパウナギに代わり、稚魚の違法取引が問題化している北米原産種が、日本でも大量に消費されている実態が明らかになった。

アメリカウナギは、カナダやハイチ、ドミニカ共和国で捕獲された稚魚が香港を経由して中国で養殖されているとみられる。日本にもこれらが「中国産」として加工品や生きた状態で輸入されている。WWFジャパンは「ウナギを大量消費する日本が、知らないうちに違法な漁業を支えてしまっている可能性がある」と指摘している。

中央大の研究チームは、2024年に全国各地のスーパーや百貨店で購入したかば焼き133点を分析。約6割は東アジア原産のニホンウナギ、約4割はアメリカウナギだった。「国産」表示の51点は全てニホンウナギだったが、「中国産」表示の82点は半分以上がアメリカウナギだった。ヨーロッパウナギも2点含まれていた。